

解説



IPSASB概念フレームワーク② (第7章～第8章)

IPSASBボードメンバー／公認会計士 **伊澤 賢司**

IPSASBテクニカル・アドバイザー／公認会計士 **落谷 竹生**

国際公会計基準審議会（IPSASB）の概念フレームワークは、今後、IPSASBが国際公会計基準（IPSAS）等の文書を開発・改訂する際に、その基礎となる概念を定めるものである。また、概念フレームワークを有しない国が独自基準を制定・改訂する際にも、その基礎として使用されることが期待されており、我が国の政府会計にも、今後、影響を与えることが想定される。

今回は、「趣意書」から第6章までを解説した。本稿では、概念フレームワークのうち、第7章及び第8章について解説する。

第7章 財務諸表における 資産及び負債の測定

概念フレームワークでは、資産と負債について、次頁図表1のように測定基礎を定めている。

これらの測定基礎は、主体の「サービスの原価」、「運営能力」、「財政能力」を最も忠実に反映するものを選択する必要がある。本章では、それぞれの測定基礎について、上記の3つの視点から解説を行っている。

第8章 一般目的財務報告書における表示

本章は、政府その他の公的部門の主体の財務諸表をはじめ、一般目的財務報告書における情報の表示に適用される概念を定める。揭示（Display）と開示（Disclosure）の区別は、これまでにない新しい考えである（次頁図表2参照）。

情報の選択は、どの情報を、財務諸表又は他の一般目的財務報告書に報告するかを定める決定である。

情報の配置は、どの報告書にする

かの決定と、同一報告書内での決定の2段階である。

情報の組織化は、情報の「配列」、「グルーピング」、「順序」を決定する。

今後の予定

2015年3月のIPSASB会議で、現行のIPSASを概念フレームワークに照らして見直す新規プロジェクトが決定された。今後、2015年6月以降のIPSASB会議で具体的な検討が行われる予定である。

図表1 資産と負債の測定基礎

資産の測定基礎

測定基礎	入口価値か出口価値か	市場において観察可能か、観察不能か	主体固有か、主体固有ではないか
取得原価	入口価値	一般に観察可能	主体固有
開かれた活発かつ秩序ある市場における市場価値	入口価値 又は 出口価値	観察可能	主体固有ではない
不活発な市場における市場価値	出口価値	評価技法による	評価技法による
再調達原価	入口価値	観察可能	主体固有
正味売却価格	出口価値	観察可能	主体固有
使用価値	出口価値	観察不能	主体固有

負債の測定基礎

測定基礎	入口価値か出口価値か	市場において観察可能か、観察不能か	主体固有か、主体固有ではないか
取得原価	入口価値	一般に観察可能	主体固有
履行原価	出口価値	観察不能	主体固有
開かれた活発かつ秩序ある市場における市場価値	入口価値 及び 出口価値	観察可能	主体固有ではない
不活発な市場における市場価値	出口価値	評価技法による	評価技法による
解放原価	出口価値	観察可能	主体固有
引受価格	入口価値	観察可能	主体固有

図表2 一般目的財務報告書における情報の表示に適用される概念

表示 (Presentation)	一般目的財務報告書に報告される情報の「選択」、「配置」及び「組織化」をいう。
掲示 (Display)	掲示される情報は、重要なメッセージを一般目的財務報告書で伝達する。
開示 (Disclosure)	開示される情報は、利用者が掲示された情報を理解するのに資する詳細を提供することで、掲示された情報の有用性を高める。
表示上の決定	情報の選択、情報の配置、情報の組織化に関する決定である。これら3つの決定は相互に関連する。

※JICPAウェブサイト「専門情報一覧」ページ等で、本号の解説全文及び会計・監査ジャーナル2015年8月号に掲載されている「IPSASB概念フレームワーク①（趣意書、第1章～第6章）」の解説全文を入手し、併読した場合に単位が付与されます。

教材コード J020712

 研修コード 2109

履修単位 1単位